

磐梯山登山道の状況

【目的】 磐梯山は磐梯朝日国立公園内にあり、深田久弥氏の日本百名山にも数えられ、日本ジオパークにも認定されている。また民謡に詠われていることもあって極めて有名である。このため一般登山愛好者はもとより、学校登山や百名山ツアーなど全国から多くの登山者が訪れる。

一方、転倒や滑落などによるケガ、道迷いなどの遭難者が後を絶たない。このようなことが起きないように、危険箇所の除去、登山道の整備、道標や看板の設置が必要である。また、バンダイクワガタなどをはじめとする高山植物の保護及び噴火が残してくれた地形の変化等の監視も重要な課題であると思う。

以上のことを踏まえて、登山道の状態や道標及び改善希望箇所、自然保護などについて調査したのでここに報告する。

【調査日】 7月24日 八方台コース 8月15日 翁島コース
8月25日 渋谷コース 9月5日 八方台コース
9月14日 裏磐梯コース 9月17日 猪苗代コース
9月28日 川上コース

【調査者】 江花 俊和

【結果】 調査した項目は以下の通りですが、具体的な内容については4ページ以降に記載しています。

登山口	No. 1 ~ 7	各登山口看板・案内板他	
登山道の状態	No. 1	木道の傾き	
	No. 2、3	橋	
	No. 4、5	間違いやすい箇所	
	No. 6	ダム工事道と登山道	
	No. 7 ~ 12	ぬかるみ	
	No. 13 ~ 17	草の繁茂	
	No. 18	水による荒れ	
	No. 19	倒木	
	道標・看板の状態	No. 1	小さい
No. 2		老朽化	
No. 3		熊による被害	
No. 4 ~ 6		文字の欠落	
No. 7		高い	
No. 8		一部欠落	
表示希望箇所		No. 1 ~ 6	遥拝所跡、賽ノ河原、四合目、五合目 天狗岩、
		No. 7	赤埴山頂

危険箇所	No. 1 ~ 2	岩場
	No. 3	狭い山腹の道
要監視箇所（安全）	No. 1 ~ 3	火口壁の階段
	No. 4 ~ 7	火口跡
自然保護関係	No. 1 ~ 3	携帯トイレブース・回収ボックス
	No. 4	赤埴山のビニールシート群
	No. 5、6	お花畑の踏込み跡
	No. 7	コウリントンポ
要監視箇所（自然）	No. 1 ~ 3	火口跡
その他	No. 1 ~ 4	三角点。磐梯明神、他

【考 察】

磐梯山は6つの登山口（赤埴林道は除く）、7つのコースがあつて登山道の管理が容易ではないが、山開きの前には登山道の点検・整備を実施し、7月から8月にかけて各登山道の刈払いが行われている。また、6月から11月にかけてのパトロールで改善箇所等の報告とともに赤布付けやゴミ拾いを実施している。

しかし、百名山を含む県内外の山を歩いて感じることは、全国的著名な磐梯山ながら、登山道の状態、道標の整備の見劣りは否めず、訪れる登山者の期待に答えていないどころか、失望の声を聞くことがある。登山者が安心して楽しむことができる登山道への取り組みが必要と思われる。

1. 登山道のぬかるみ、不安定な橋、階段の壊れ、草の繁茂、不安定な岩やガレ場など早急な整備が必要である。また、火口壁の階段の壊れと火口の土石流による登山道の監視が必要である。
2. 登山道に欠かすことのできない道標や看板の設置が不十分であり、且つ、老朽化や壊れ、文字が欠落しているものが多い。中には熊によって壊された道標もいくつか見受けられる（これはペンキや塗料に含まれる成分が熊を刺激するのではないかと思われるので今後は考慮する必要がある）。よつて道標・案内板の必要場所を確認して統一した形での検討・設置を急いでほしい。
3. お花畑への立入りの跡が数箇所見られる。立入り禁止は木柱を横に設置してあるがロープを併用した方がよいと思われる。なお、立ち入るのは火口の景観が目的と思われるので、1箇所を開放してはどうだろうか。
4. 携帯トイレは活用されているものの、登山道や山頂周辺にはまだ跡が残る。トイレの無い登山口に簡易トイレの設置が必要と思う。また、携帯トイレを宿泊施設に置いてもらうなどの普及策が望まれる。ちなみにトイレの無い登山口は、翁島・猪苗代・渋谷・川上である。
5. 磐梯山は今も残る荒々しい噴火の跡が間近に見ることができるのが魅力の一つである。130経つて火口にはカラマツやダケカンバ、低灌木類が広がってきている。噴火後の地形とともに植生の変化にも目を向けていかなければならないと思う。

以上